

みよしの環境ブック

令和3（2021）年度～令和12（2030）年度

第2次みよし市環境基本計画

（子ども版）

循環・共生する持続可能なずっと住みたいまち

脱炭素

脱炭素のまちづくり



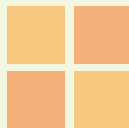
自然共生

自然共生のまちづくり



資源循環

循環型のまちづくり



安全安心

安全・安心のまちづくり



協働

協働による環境行動のまちづくり



みよし市



も く じ

もくじ（このページです。）	1
はじめに	2
目指すまちの姿	3
持続可能なみよし市を目指して	4
目標1 脱炭素のまちづくり	5
目標2 自然共生のまちづくり	6
目標3 循環型のまちづくり	9
目標4 安全・安心のまちづくり	11
目標5 協働による環境行動のまちづくり	13

本書を読む前に.....

環境とはなんなのでしょうか？

空気、水、生きもの、天気や気候など私たちの生活に関わり、私たちの周りにあるもの、すべてが「環境」です。環境は、皆さんが安心して笑顔で毎日を暮らすために、とても大切なものです。



本書をどのように使うか？

環境問題を「気づこう」、「調べよう」、「考えよう」、「実行しよう」の4ステップで取り組むための本です。



はじめに

第2次みよし市環境基本計画とは？

みよし市の環境を守るための計画です。

みよし市は、大都市に近く、里山やため池といった豊かな自然が広がる住みよいまちとして発展してきました。現代社会は、私たちの生活を豊かにする一方、石油などの限りある資源を大量に消費したり、宅地化による自然の減少など、環境に対して様々な負の影響を与えています。

環境負荷を抑え、市民の皆さんが快適で健康的に暮らすことができるみよし市を次世代に伝えていくために、令和3年3月に『第2次みよし市環境基本計画』を策定しました。

将来のみよし市の姿を描いています。

『第2次みよし市環境基本計画』では、市民・事業者・市（行政）が一体となって、豊かな自然を身近に感じながら、安心して快適に暮らすことのできる『まちづくり』を目指し、将来のみよし市の目指すまちの姿を『循環・共生する持続可能なずっと住みたいまち』としています。

目指すまちの姿

循環・共生する持続可能なずっと住みたいまち

● 「循環」とは

樹々を育ててきれいな空気をつくりだすことや、電気などのエネルギーを作り出し融通し合うことや、市内で作った野菜や果物などを地域で作って地域で消費する事などを繰り返すことです。

● 「共生」とは

人間だけではなく動物や植物などと補いながら地域で生活することです。

● 「持続可能」とは

地球環境や自然環境の適切な保全が、経済成長や社会と対立することなく互いに支え合い、バランスを保っているような状態なことを言います。

市民・事業者・市（行政）の「協働による環境行動」により進めます。

目指すまちの実現には、市民・事業者・市（行政）がお互いに力を合わせて行動する「協働」が必要です。市民・事業者・市（行政）が環境のために取り組むべき行動を紹介いたします。

市民	<ul style="list-style-type: none">・ふだんの行動が、環境に影響を与えていることを理解します。・環境に配慮した行動に自発的に取り組みます。
事業者	<ul style="list-style-type: none">・法律を守り、公害を防止した事業活動を進めます。・自然環境の保全や、省資源・省エネルギーに取り組みます。
市（行政）	<ul style="list-style-type: none">・環境基本計画に定める市の取り組みを実施します。・市民・事業者との協働により、環境保全の取り組みを推進します。

目指すまちの姿

『第2次みよし市環境基本計画』では5つのまちづくりの分野と目標を定めています。

将来像 循環・共生する持続可能なずっと住みたいまち

まちづくりの分野

- 目指すまちの姿

SDGs Goal

1 脱炭素のまちづくり

- 創・省エネルギーなどの技術革新ぎじゅつかくしんやビジネス創出そうしゅつにより経済が活性化している。
- 太陽光発電などの導入により、無理ていたんそがたのない低炭素型の暮らしが定着している。



2 自然共生のまちづくり

- 多様な自然と風土を適切に保全するとともに、豊かな生態系ネットワークがまちの中に息づいている。



3 循環型のまちづくり

- 廃棄物減量化がさらに進み、小型家電など資源の有効利用が実現している。
- ごみ出し・収集での高齢者対策、有害物質対策や、災害廃棄物対策などの仕組みが構築されている。



4 安全・安心のまちづくり

- 生活環境が汚染されることなく健全に維持され、起こりうる気候変動きこうへんどうや災害に備えたまちづくりによって、市民の健康と安全が守られている。



5 協働による環境行動のまちづくり

- 市民一人一人が環境に対する関心や自覚を高め、環境はいりょに配慮した選択ができている。



持続可能なみよし市を目指して

エスディーゼー
SDGsでは様々な問題の同時解決を目指しています。

『第2次みよし市環境基本計画』ではエスディーゼー（持続可能な開発目標）の考え方を取り入れて『目指すまちの姿』を設定しています。SDGsは2030年までの17の目標（ゴール）が設定されています。SDGsの目標はそれぞれ関連しているため、一つの課題解決の行動により、複数の課題解決を目指すことも可能であり、環境のみではなく、環境・経済・社会のつながりを考え、ともに解決していくことが大切になります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- | | | | |
|---|---|---|--|
| <p>1 貧困をなくそう</p>  | <p>あらゆる場所のあらゆる貧困を終わらせよう。</p> | <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  | <p>災害に強いインフラを作り、持続可能な形で産業を発展させイノベーションを推進していこう。</p> |
| <p>2 飢餓をゼロに</p>  | <p>飢餓を終わらせ、全ての人々が一年を通じて栄養のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう。</p> | <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  | <p>国内および国家間の不平等を見直そう。</p> |
| <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  | <p>あらゆる年齢の全ての人々の健康な生活を確保し、福祉を促進しよう。</p> | <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  | <p>安全で災害に強く、持続可能な都市および居住環境を実現しよう。</p> |
| <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  | <p>全ての人々が受けられる公正で質の高い教育の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう。</p> | <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  | <p>持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めていこう。</p> |
| <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  | <p>男女の平等を達成し、全ての女性および女兒の能力の可能性を伸ばそう。</p> | <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>  | <p>気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じよう。</p> |
| <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>  | <p>全ての人々が安全な水とトイレを利用できるように衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう。</p> | <p>14 海の豊かさを守ろう</p>  | <p>持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続可能な形で利用しよう。</p> |
| <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  | <p>全ての人々が、安くて安定した持続可能な近代的エネルギーを利用できるようにしよう。</p> | <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>  | <p>陸上の生態系や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう。</p> |
| <p>8 働きがいも経済成長も</p>  | <p>誰も取り残さない持続可能な経済成長を促進し、全ての人々が生産的で働きがいのある人間らしい仕事に就くことができるようにしよう。</p> | <p>16 平和と公正をすべての人に</p>  | <p>持続可能な開発のための平和的で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人々が法や制度で守られる社会を構築しよう。</p> |
| | | <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>  | <p>目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発において世界のみならず協力しよう。</p> |

目標 1 脱炭素のまちづくり



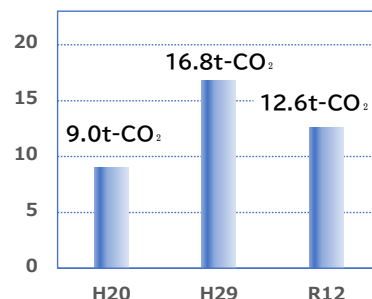
- 創・省エネルギーなどの技術革新ぎじゅつかくしんやビジネス創出そうしゅつにより経済が活性化している。
- 太陽光発電などの導入により、無理のない低炭素型ていたんそがたの暮らしが定着している。

数字で見る目標

CO₂排出量の削減さくげん

地球温暖化の原因とされる温室効果ガスについて、みよし市では市民一人あたりのCO₂排出量が平成20年時点では9.0t-CO₂でしたが、平成29年には16.8t-CO₂と増加しています。今後はこれまで以上に削減に向けた取り組みを進め、令和12年までの間に12.6t-CO₂に削減することを目標としています。

市民一人当たりのCO₂排出量 (t-CO₂)



実現に向けた取り組み①

地球温暖化対策への対応

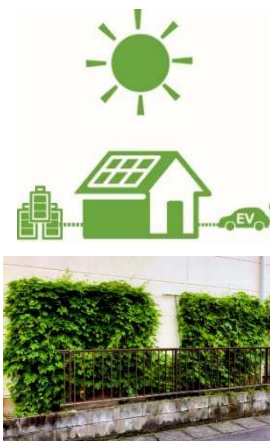
省エネルギーに対する意識を高め、省エネ機器の導入や節電に取り組みます。また、太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用を推進し、市全体での地球温暖化対策を進めます。

例：創・省エネルギーの推進すいしん

市内の住宅に太陽光発電システムや燃料電池システム等を設置する費用の一部を補助しています。

例：緑のカーテン設置事業

夏の省エネルギーや地球温暖化防止対策の一環として、公共施設、小中学校、保育園、幼稚園で設置するとともに、市民の皆さんに「緑のカーテン」用の苗の無料配布を行っています。



実現に向けた取り組み②

環境負荷の少ない交通の推進

燃費の良い電気自動車・燃料電池自動車・プラグインハイブリッド自動車などの低公害車エコカーの普及促進ふきゅうそくしんや、電車・バスなどの公共交通機関や自転車が利用しやすくなるような整備を行い、自家用車に頼りすぎないライフスタイルの実現を目指します。

例：公共交通機関への交通手段の転換てんかん

さんさんバスの運行本数を増やすなど、公共交通機関の利用を促進そくしんします。

例：低公害車の導入や利用の推進すいしん

市民・事業者の低公害車購入のための費用の一部を補助しています。

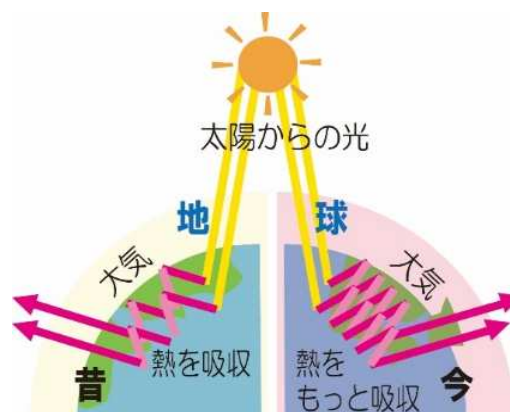


Step1 気づこう

エネルギーと地球温暖化

地球温暖化の問題には、私たちの生活とエネルギーの消費の変化が深く関わっています。地球の表面を覆っている大気には、太陽光によって温められた地表の熱が宇宙空間へ逃げるのを防いで、気候を温暖に保つはたらきがあります。

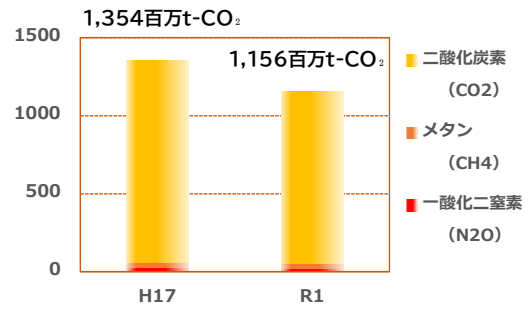
このはたらきを温室効果と呼び、温室効果をもっている大気中の二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O) などの気体を温室効果ガスと呼びます。



左：昔の地球 / 右：今の地球

自動車や機械を動かすエネルギーとして、石油・石炭などの化石燃料が大量に消費されると、大気中に多くのCO₂が排出されます。大気中の温室効果ガスが増加すると温室効果が強まってしまうため、地球温暖化が進行すると考えられています。平成17年から令和1年にかけてCO₂排出量は減少しているものの地球温暖化の防止のためにはさらに減少させていく必要があります。

日本の温室効果ガス排出量（百万t-CO₂）



（注：N₂O、CH₄ の値はそれぞれの温室効果の大きさをCO₂に置き換えたもの）

Step2 調べよう、Step3 考えよう 家庭からのCO₂排出量

それぞれの家庭で消費している電力やガスのレシートから、1 か月間に排出されるCO₂の量を計算してみましょう。

①電気、ガスなどの使用量を求める

電気、水道、ガスの利用明細、ガソリン給油時のレシートを用意し、家庭の1 か月の使用量を調べます。可燃ごみの重さは、ごみ出しの時に毎回計測します。

②CO₂ 排出量を計算する。

電気、水道、ガスの使用量、可燃ごみの重さに排出係数（※）をかけることで、それぞれの家庭から発生するCO₂量を求めます。

●電気使用量 (kWh)	× 0.43 (排出係数)	=	kg-CO ₂	(ア)
●都市ガス使用量 (m ³)	× 2.20 (排出係数)	=	kg-CO ₂	(イ)
●LP(プロパン)ガス使用量 (m ³)	× 6.0 (排出係数)	=	kg-CO ₂	(ウ)
●水道使用量×1/2 (m ³)	× 0.23 (排出係数)	=	kg-CO ₂	(エ)
●ガソリン使用量 (L)	× 2.3 (排出係数)	=	kg-CO ₂	(オ)
●可燃ごみの量 (kg)	× 0.34 (排出係数)	=	kg-CO ₂	(カ)
1 か月のCO ₂ 排出量=(ア)~(カ)の合計				kg-CO ₂

※排出係数：資源の使用量とそれを利用・処理する際に発生するCO₂量との関係を表す数値

※水道は2 か月分の利用明細のため、1/2 を乗じます

（注：電気の排出係数は2019年度の中部電力の実績値）

Step4 実行しよう 「低炭素社会のためにできること」チェックリスト

6 個

節水	洗顔、歯みがきの時に水道の水を出しっぱなしにせず、こまめに止めましょう。	✓
節電	見たいテレビ番組を選び、利用時間を減らして電力消費を減らしましょう。	✓
省エネ製品	家電製品を購入する時は、省エネ型のエアコンやLED電球など、CO ₂ 排出量の少ない製品を選びましょう。	✓
打ち水	夏の朝と夕方には家の前で打ち水をして、エアコンを使わずに涼しさを保ちましょう。	✓
スマートムーブ	通勤・通学には自転車・電車・バスなどCO ₂ 排出量の少ない公共交通機関を使いましょう。	✓
	エコカーへの買い替えやエコドライブなど、自動車の利用を工夫しましょう。	✓

目標2 自然共生のまちづくり



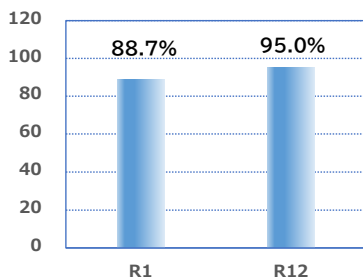
- 多様な自然と風土を適切に保全するとともに、豊かな生態系ネットワークがまちの中に息づいている。

数字で見る目標

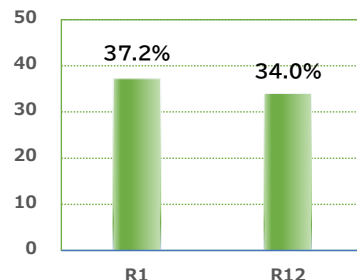
緑の確保・水辺環境の保全

みよし市では、森や水辺などの自然を将来にわたって保全していくとともに、市民の暮らしとさまざまな生きものが共生できる自然共生のまちの実現を目指します。市街地の開発などによってみよしの豊かな自然が失われないよう、ため池の水質の向上や緑被率（※）の維持を目標とし、快適な生活環境をつくっていきます。

ため池の水質環境基準達成率（%）



緑被率（%）



（※緑被率：森林や畑などの緑でおおわれた土地の割合）

実現に向けた取り組み①

豊かな自然の保全・再生

森や雑木林の緑、池や川などの水辺環境を保全・整備し、生きものの生息環境と自然を守ります。

実現に向けた取り組み②

身近な緑の保全・創出

公園や道路、公共施設の緑化、住宅や事業所などへの生垣や屋上・壁面緑化など、身近な場所に緑を増やします。



実現に向けた取り組み③

公害対策の推進

市民や市内に住む全ての生きものが安全で快適に暮らせる環境づくりのために、大気や水質、騒音・振動及び悪臭について、環境省の定める環境基準の達成に努めます。

また、ごみの野焼きや生活排水処理などの、生活公害について市民の皆さんに周知します。

実現に向けた取り組み④

快適で人にやさしい都市空間の形成

公共施設のバリアフリー化や自転車専用道を確保した道路整備により、すべての市民が快適に安全で利用できるまちづくりを進めます。また、環境美化に関する取り組みの推進や、歴史・文化的資源を活用したまちづくりに努めます。

Step1 気づこう

自然生態系の危機

「水」、「大気」、「土」、「太陽の光」、そしてこれらに支えられて生きる「さまざまな野生の生きもの」主にこれら5つの要素が複雑に関係しあって成り立つ自然のしくみを、自然生態系といいます。自然生態系は私たちの生活に欠かすことのできない食料や、水、木材や紙などを与えてくれる私たち社会の土台であり、重要な財産です。この自然生態系を守っていくためには、特定の生きものだけを

保護するのではなく、その地域ごとの自然生態系に含まれる要素全てを守っていくことが重要になります。

しかし近年、土地の開発や、地球温暖化などの大きな環境の変化、人間により他の地域から持ち込まれた外来種の繁殖などが原因で自然生態系のバランスが崩れてきています。愛知県には現在、約 11,900 種の動物と約 4,200 種もの植物が生息していますが、その内の約 6% に当たる 848 種が絶滅のおそれがあるとされています。

将来の世代に自然生態系のもたらす恵みを引き継いでいくためにも今ある自然生態系を守っていくために、何ができるか考える必要があります。



出典：日本生態系協会 HP

Step2 調べよう、Step3 考えよう

身のまわりの在来種と外来種

私たちのまわりに住んでいる生きものにも地域にもともと住んでいる生きもの（在来種）と地域の外からやってきた生きもの（外来種）がいます。身近な生きものがどちらの種なのか調べてみましょう。

在来種

ハッチョウトンボ

体長が 2cm ほどしかない世界最小のトンボ。モウセンゴケやミズゴケが生える明るい湿地に生息しています。



ミカワツツジ

名前の通り三河地方に生えているヤマツツジの一種。葉と花が小さいことが特徴で、4~6 月ごろに紅紫色の花をさかせます。



その他に見つけた在来種を書いてみよう

外来種

ミシシippアカミミガメ

子ガメは「ミドリガメ」と呼ばれている南アメリカ原産のカメ。ペットとして飼いきれなくなり、捨てられたものが増え、在来種のカメの住む場所をうばっています。



セイヨウタンポポ

ヨーロッパ原産のタンポポ。在来種のタンポポとよく似ていますが、花の下の緑の部分（総苞片：そうほうへん）が反り返っているものがセイヨウタンポポです。



その他に見つけた外来種を書いてみよう

出典：国立環境研究所 HP

Step4 実行しよう

「自然共生社会のためにできること」チェックリスト

5

個

自然観察	森や自然の中に出かけ、生きものや草花を観察してみましょう。	✓
ペット	ペットは責任を持って最後まで面倒をみて、野外に放さないようにしましょう。	✓
旬の食材	旬の農産物を選ぶなど、自然の恵みを感じる食生活を心掛けましょう。	✓
有機栽培	自宅の庭で、農薬を使わず生きものにやさしい野菜づくりを始めましょう。	✓
庭づくり	自宅の庭に、地域の生物のすみかとなる木を植えましょう。	✓

目標3 循環型のまちづくり



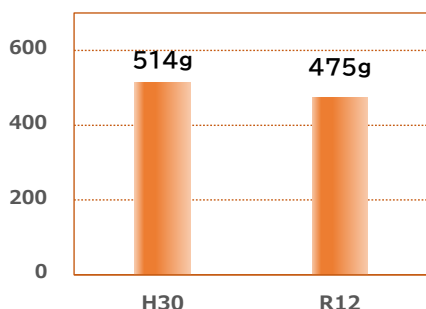
- 廃棄物減量化がさらに進み、小型家電など資源の有効利用が実現している。
- ごみ出し・収集での高齢者対策、有害物質対策や、災害廃棄物対策などの仕組みが構築されている。

数字で見る目標

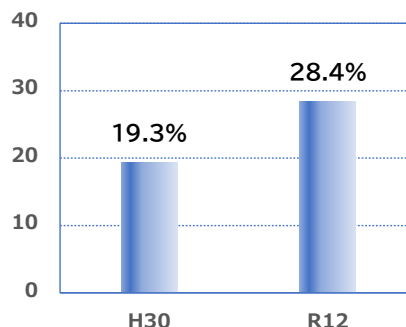
ごみの減量化と資源化

みよし市では、ごみの分別収集や4 R (Reduce:ごみの減量、Refuse:不要なものの辞退、Reuse:再利用、Recycle:再資源化)、リサイクルステーションの増設などを進め、ごみの減量化の目標として市民一人1日当たりの家庭系ごみの排出量を令和12年までに475gに削減することを目指します。また、資源循環の目標として、令和12年までにリサイクル率(※)を28.4%に引き上げることを目指します。

1日1人当たりの家庭系ごみ排出量 (g)



リサイクル率 (%)



(リサイクル率：年間ごみ総排出量のうち資源化された割合)

実現に向けた取り組み①

資源の循環利用の推進

マイバッグの利用やごみの分別、食品ロスの削減やペーパーレス化、再利用・再資源化可能な商品の購入など、市民一人一人が4 Rを意識して、市全体でごみの減量と資源化に取り組みます。

例：リサイクルステーションによる資源回収

再資源化する家庭ごみを収集するためのリサイクルステーションを市内に3か所設置しています。



実現に向けた取り組み②

資源の地域循環

地域で採れた農作物を地域で消費する地産地消の取り組みを促進し、食料を輸送することによって出る温室効果ガスを減らします。また雨水の利用など節水に努め、限りある水を大切にす取り組みを進めます。

例：地産地消の啓発

「産直マップ」により、地元の農産物を販売する産直施設や産直コーナーの情報を発信しています。



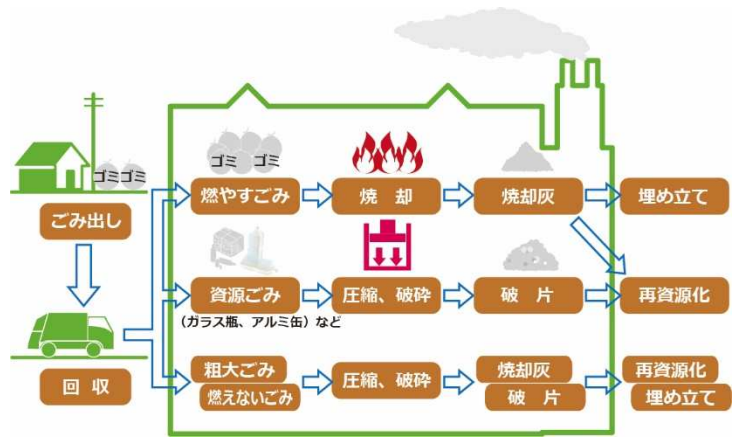
Step1 気づこう

ごみの処理方法

みよし市の家庭や職場から回収されたごみは、東郷町にある東郷美化センターなどに集められ、処理されています。

収集されたごみは、焼却されたり、^{あつしゆく}圧縮・^{はさい}破碎されて体積を減らした後、再び資源として利用されるか、資源化の難しいものは埋め立て処分されます。

資源化されたごみは、新たな製品に生まれ変わり、再び家庭や職場で使用されます。



Step2 調べよう、Step3 考えよう

みよし市のごみの分別

みよし市では、「燃やすごみ」、「金属ごみ」、「陶磁器・ガラスごみ」、「再利用資源（びん・かん・ペットボトル）」、「粗大ごみ」に加え、令和2年4月からは「プラスチック製容器包装」の収集を行っています。正しく分別することが、再び資源として利用するために大切なこととなります。私たちがふだん使っているものはどのように分別すればよいか調べてみましょう。



左の絵から番号を選んでみましょう。

- 燃やすごみ ()
- 金属ごみ ()
- 陶磁器・ガラスごみ ()
- 再利用資源 (びん・かん・ペットボトル) ()
- 粗大ごみ ()
- プラスチック製容器包装 ()

Step4 実行しよう

「循環型社会のためにできること」チェックリスト

7 個

リデュース Reduce	食料品などは必要なだけ買うようにし、食べ残し等を減らす工夫をしましょう。	✓
リフューズ Refuse	マイバックで買い物にでかけてレジ袋をもらわないようにしましょう。	✓
リユース Reuse	フリーマーケットやリサイクルショップを積極的に利用しましょう。	✓
	シャンプーなどの製品は、詰め替え用のパッケージを選びましょう。	✓
リサイクル Recycle	エコマークや再生紙利用マークなどのついた商品を買うようにしましょう。	✓
	いらなくなった新聞や雑誌などを、市内のリサイクルステーションに持ちこんで再資源化しましょう。	✓
地産地消	地域でとれた農産物を選んで買うようにしましょう。	✓

⑧: 陶磁器・ガラス製容器包装 ⑨: プラスチック製容器包装 ⑩: 粗大ごみ ⑪: 燃やすごみ ⑫: 金属製容器包装 ⑬: 再利用資源(びん・かん・ペットボトル) ⑭: 資源ごみ(ガラス瓶、アルミ缶など) ⑮: 生ごみ

目標4 安全・安心のまちづくり



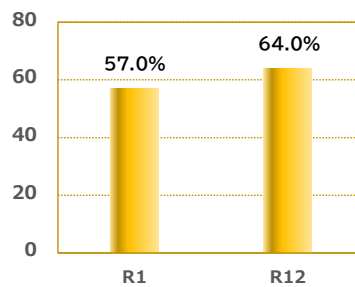
●生活環境が汚染されることなく健全に維持され、起こりうる気候変動や災害に備えたまちづくりによって、市民の健康と安全が守られている。

数字で見る目標

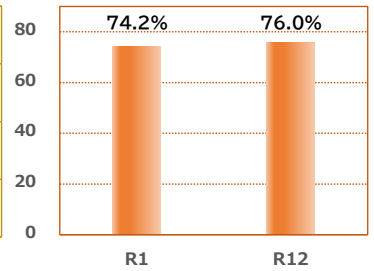
安全・安心のまちづくりの推進

近年、大規模な気象災害が多発しているのは、地球温暖化がその一因とも言われています。市内での川の氾濫による災害を防ぐため、令和12年までに市内の川の改修率の64%を目指します。また、水や大気をきれいにする取り組みや、道路・施設のバリアフリー化を進めて、安全で快適な生活環境を目指します。

準用河川の改修率(%)



公共施設のバリアフリー率(%)



実現に向けた取り組み①

環境汚染の防止とリスク低減

市民の皆さんが安全・安心で快適に暮らせるよう、大気・水質の汚染や騒音・振動および悪臭の防止に取り組みます。

実現に向けた取り組み②

良好な生活環境

市民の皆さんにとって安全で安心な生活環境とするために、公共施設のバリアフリー化や、歩道・自転車専用道の整備など、人にやさしい施設整備を行います。また、美しい都市景観の形成に努め、歴史的・文化的資源を活用したまちづくりを行います。

実現に向けた取り組み③

災害に強いまちづくり

地球温暖化の進行などが原因で、近年大規模な自然災害が頻繁に起こっています。自然災害が起こったときに、大きな被害が生じないような森林・河川づくりや、災害時の暮らしを支える社会基盤を整えるなど災害に備えたまちづくりを行います。



Step1 気づこう

地球温暖化がひきおこす問題

地球温暖化により起こっている身のまわりの危険から、安全・安心に生活できる環境を整える必要があります。

●陸地が減る

南極や北極海の氷がとけ始めているのが観測されています。氷がとけると、海水面が上昇し、陸地が減るおそれがあります。



●食べ物や水が減る

最近では異常気象とよばれる現象が多く、豪雨や暴風雨、洪水やかんばつが世界中で深刻な被害を引き起こしています。日本でも強い台風が多く発生し、農作物に大きな被害が出ています。

● **病気になる可能性が高くなる**

夏の暑さで熱中症で救急搬送される人が毎年たくさんいます。また、熱帯の地域の病気マラリアなどが気温上昇により日本でも発生する可能性があると言われています。

Step2 調べよう、Step3 考えよう 災害から安全・安心な生活を守るためにできること

大地震、大雨による洪水、土砂災害など自然災害はいつ、どのような形で私たちの生活に影響を及ぼすかわかりません。そんな災害による被害を少しでも減らせるように私たちは防災・減災対策に取り組んでいかなければなりません。そのためには、「自助」、「共助」、「公助」の「3助」が重要と言われています。

「自助」、「共助」について日常でできること、災害が起こった時にできることについて調べてみましょう。

● **「自助」** 自らのことを自らで守る

日常
災害時

● **「共助」** 地域の人で助け合い、支えあう

日常
災害時

● **「公助」** 自治体などの安全・安心の対策

Step4 実行しよう 「安全・安心のためにできること」チェックリスト

7 個

水	汚れた水を流さないように工夫したり、洗剤を使いすぎないようにして水を汚さないようにしましょう。	✓
音	近隣の迷惑になるような大きな音を発生させないようにしましょう。	✓
ごみ	ポイ捨てをしないようにしましょう。	✓
	食べ物を残さず、食べられるだけ買い物するようにしましょう。	✓
景色・風景	住んでいる地域の景色や風景を大事にしましょう。	✓
温暖化対策	夏期に図書館や商業施設など、自宅で冷房を使用せず冷房の効いた建物で過ごしましょう（クールシェア）。	✓
	早めに夏の軽装を開始しましょう。	✓

目標5 協働による環境行動のまちづくり



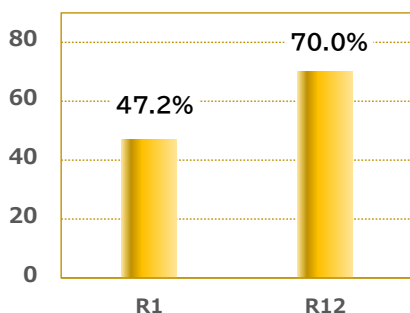
- 市民一人一人が環境に対する関心や自覚を高め、環境に配慮した選択ができています。

数字で見る目標

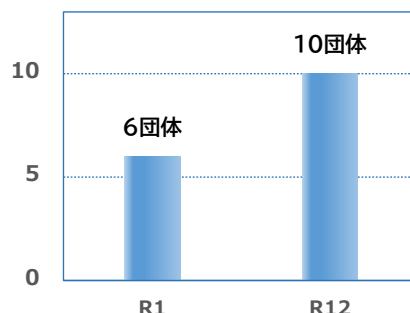
環境意識の向上

多様化する環境問題の解決のためには、市民や事業者が市（行政）と協働して主体的に取り組むことが必要です。学校、地域での環境教育を通じて意識を高め、環境問題に各主体が協働で取り組むべきと感じる市民の割合を、令和12年までに市の人口の70%まで増やすことを目指します。また、環境保全に取り組む団体の登録数を増やし、環境情報の収集・発信にも努めます。

環境問題に協働で取り組むべきと感じている市民の割合(%)



環境分野の公益活動団体数(団体)



実現に向けた取り組み①

環境学習の推進

環境学習の推進として、学校教育を通じて自然とふれあえる体験学習や、市民が環境について幅広く学ぶことのできる学習環境の充実を図ります。また環境教育に関する調査・研究結果を取り入れた学習プログラムの実施や学校校舎のエコ改修なども進めます。



実現に向けた取り組み②

環境保全行動の推進

広報紙やホームページを活用して、環境に関する情報を市民・事業者・市（行政）が共有できる取り組みを進めます。また、市内のネットワークだけでなく、他の市町村や地域とのネットワークも利用した活動や取り組みを推進します。



Step1 気づこう

身の回りにある協働

みよし市では地域の河川やため池での清掃活動や、「市内一斉環境美化の日」での道路や公園の清掃活動を定期的に行っています。毎回多くの市民の皆さんが参加し、参加者同士で会話を楽しみながらごみを拾い、交流を深めています。



国や県の取り組みを調べよう

国や県から毎年発表されている「環境白書」には、様々な環境問題を引き起こしている原因やこれまでの変化、環境問題に対する様々な取り組みなどについてまとめられています。さらに、「環境白書」の内容を小学生、中学生向けに分かりやすく解説した「こども環境白書」もあります。その他にもインターネットなどを使って様々な行政の取り組みや最新情報などを調べることができます。



こども環境白書：<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo.html>

市役所の施設を利用して調べよう

みよし市では、環境に関する様々な情報や市の取り組みの発信を「みよし情報プラザ（市役所1階）」「みよし市図書館学習交流プラザ（サンライブ）」などで行っています。



みよし情報プラザ

Step4 実行しよう 「協働のためにできること」チェックリスト

3 個

地域活動	地域で行っている公園や河川などの清掃活動に参加しましょう。	✓
環境学習	環境問題に対する取り組みを紹介するイベントやフォーラムに参加しましょう。	✓
調査活動	市や環境活動団体が実施している環境調査活動に参加しましょう。	✓

ここまでの✓の合計数を数えてみましょう

28 個

【評価】

0～10 個	環境にやさしいライフスタイルに向けて、まだまだできることがあります。水の出しっぱなしや電気の消し忘れ、ごみの分別など、身近な生活習慣を見直すことから始めていきましょう。
11～20 個	環境問題について関心を持ち、環境にやさしいライフスタイルを確立するために日々の生活の中で工夫しています。これまで取り組んでこなかった行動についても調べ、積極的にチャレンジしていきましょう。
21～28 個	環境問題について強い問題意識を持ち、環境にやさしいライフスタイルを確立しています。地域の活動に参加するなどして、環境への取り組みを多くの人に伝える役割を果たすことができますでしょう。



Miyoshi City

私の環境基本計画

各環境分野で考えた環境基本計画（目標）を記入しましょう。

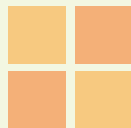
脱炭素

自然共生

資源循環

安全安心

協働



愛知県みよし市立 中学校 年 組
氏名